

台中經濟協定

台湾と中国は6月29日、台中經濟協力枠組み協定(ECTA)に調印した。北東アジアの台湾、中国、日本、韓国間で、初めて自由貿易協定(FTA)に相当する取り決めが結ばれたことになる。

台湾の前政権は、「促独反中」(台湾独立を促進し、中国と対立)の方針を進めてきたにもかかわらず、2008年に馬英九新政権が発足したときには、台湾の輸出額の40%超が中国に向けられ、中国は台湾の最大の貿易パートナーとなっていた。台湾人の対外投資のうち80%が中国に投資され、人口2300万人の台湾から年間延べ450万人が中国を訪問していた。

ECFA締結は、長年の台中交流で積み上げられた既成事実を法制化し、経済の往来



台北駐日經濟文化代表処代表

寄稿 馮寄台氏

北東アジアの繁栄促進

を正常化するものである。

台湾与党の呉伯雄・名誉主席は、7月12日に北京で胡锦涛・中国共産党総書記と会談した際、「現実を直視し、相互信頼を蓄積し、小異を残して大同を求め、引き続き(互いに利益を得られる)ウインウインを創出しよう」という馬總統からのメッセージを伝達した。

我々が中国とECFAを締結したのは、まさに現実を直視し、相互信頼を構築するためである。馬總統は任期中には絶対に中国と統一問題を話し合うことはなく、「統一せず、独立せず、武力行使せず」の「三つのノー」政策を堅持することを再三強調している。台湾の行政院大陸委員会の最新世論調査によると、6割を超える台湾の人々がE

CTA協議の結果に満足していると答えた。

いまや中国は「世界の工場」であるとともに「世界の市場」であり、日本の最大の貿易パートナーでもある。台湾は09年、年間580億円の対中貿易黒字があり(台湾は同年、日本に対して年間220億円の赤字がある)、中国への輸出商品の大部分が半製品だ。

その多くが日本製部品とともに中国で組み立てられ、完成品が日本及び世界に輸出されているのである。台湾、日本、中国は互いに切っても切れない緊密な貿易関係がある。

馬總統は、就任から2年余りの間に65組の日本からの訪問団と会い、最近日本の訪問客と会見した際には、「日本は台湾にとり第2の貿易パートナーであり、台湾は日本にと

り第4の貿易輸出相手である。台中がECFAに調印したが、今後には日本との経済・貿易関係をもっと強化していきたい」と語った。

ECFA調印をきっかけに、韓国の李明博大統領は、閣議で中韓FTA交渉を検討するよう指示した。また、日本の丹羽宇一郎駐中国大使も最近、中国が東南アジア諸国連合(ASEAN)とFTAを結び、台湾とも結び、中韓も交渉を始めようとしている、として、早急に日中の自由貿易協定協議に入るべきだと呼びかけた。ECFAの締結は今後、北東アジアの自由貿易の流れをもたらし、地域の繁栄と安定を促進していくことになる。台湾は、経済・貿易の持続的発展のために、日本を含む主要貿易パートナーと関連する貿易協定の話し合いが速やかに進められるよう期待している。